

【標準問題】（難易度：易）

下の文は世界史の授業で「イスラーム世界の形成」を説明している様子を抜粋したものです。あなた自身がこの授業に参加している生徒だと思って、文中の ～ に適する語句を考えて、答えなさい。また、下の問に答えなさい。

先生 「紅海・インド洋・ペルシア湾に囲まれたアラビア半島をまず、地図を見て確認しましょう。見つかったかな。アラビア半島の大部分は雨が少ない乾燥した気候なので、樹木が育ちません。だから、何が広がっているのですか。」

生徒A 「 です。」

先生 「そうですね。 の中にも例外的に地下水や井戸水などから水が出る場所がいくつかあり、このような水の出る場所をオアシスと言いましたね。覚えている。」

先生 「アラブ人は各地に点在するオアシスを中心に古くから遊牧や農業を行い、隊商による商業活動を行っていました。」

先生 「6世紀後半になると、国際情勢の大きな変化を受けてオアシスの道や海の道によって運ばれた様々な商品が、アラビア半島西部を経由するようになり、メッカの商人は莫大な利益を得るようになりました。」

生徒B 「先生、国際情勢の大きな変化って何ですか。」

先生 「それはビザンツ帝国とアラビア半島の東に広がるイラン系の王朝とが戦いを繰り返したため、オアシスの道が両国の国境でとだえ、紅海貿易も衰えたということかな。」

生徒C 「イラン系の王朝っていうことはアケメネス朝だっけ。」

生徒B 「時代が違うよ。 朝でしょう。」

先生 「正解です。さて、このメッカに生まれたクライシュ族の商人ムハンマドは、610年頃唯一神アッラーの言葉を授けられたと自覚しました。」

生徒C 「先生、ムハンマドは神の言葉を伝える として活動を始めたということですね。」

先生 「そうなんです。アッラーの使徒と名乗って厳格な一神教でイスラーム教をとなえました。しかし、メッカの大商人による迫害を受け、622年少数の信者と共にメディナに移りました。この移住のことを (聖遷) と言い、622年をイスラーム暦の紀元としています。ムハンマドは彼を長とするイスラーム教徒の共同体、 を設立しました。これは、イスラーム教徒の集合を理念化したものとされています。」

生徒A 「先生、そのあとどうなったのですか。」

先生 「630年、ムハンマドはメッカを征服し、多神教の神殿であった をイスラーム教の聖殿に決めました。その後、ムハンマドの権威のもとにゆるやかなアラビア半島の統一が実現されました。しかし、ムハンマドは間もなく亡

くなりました。632年のことです。」

生徒B 「いよいよカリフの登場ですね。」

生徒C 「そのカリフって言うのは何なの。」

先生 「カリフと言うのはムハンマドの代理人、後継者という意味で使われていますね。最初の4代はイスラーム教徒による選挙で選ばれたことから、一般に [7] カリフと言います。」

先生 「第4代カリフの [8] が暗殺されると彼と敵対していたシリア総督のムアウィヤは、661年シリアの中心都市 [9] にウマイヤ朝を開き、カリフの世襲の道を開いたのです。」

先生 「しかし、その結果、第4代カリフの子孫だけがイスラーム共同体を指導する資格があると主張する [10] 派が誕生することとなり、現代のイスラーム教内の宗派对立につながっていくのです。」

生徒A 「ということは、ウマイヤ朝を認めた人たちがスンナ派ってということですね。」

先生 「そういうことになりますね。現代、イスラーム教徒の約9割を占める主流派ということですね。」

先生 「それではアラブ帝国とも呼ばれるウマイヤ朝について、説明しましょう。」

先生 「ウマイヤ朝は、東は西北インドから、西は西ゴート王国を711年に滅ぼして [11] 半島にいたる広大な領土を支配しました。この広大なイスラーム世界では、アラブ人が帝国の支配者集団を形成し、被征服地の民族を支配する体制が構築されたのでアラブ帝国とも呼ばれるのです。」

先生 「そして、アラビア語で地租を意味する [12] と人頭税 [13] は征服地の先住民だけに課せられ、彼らがイスラーム教に改宗しても実際には免除されことはなかったのです。こうした、ウマイヤ朝の排他的な支配に対して批判する勢力がアラブ人の中にもあらわれ、様々な不安定要因を抱える中で、750年に滅亡しました。」

生徒C 「ウマイヤ朝って案外、長くは持たなかったんだ。」

先生 「そうですね。さて、ウマイヤ朝を倒したのがアブー＝アルアッバース。ムハンマドの叔父の子孫アッバース家ですね。いわゆるアッバース朝の成立です。」

先生 「アッバース朝は第2代カリフのマンスールの時、肥沃なイラク平原の中心に円形の新都 [14] を建設しました。」

生徒B 「アッバース朝とウマイヤ朝との違いはなんですか。」

先生 「うーん、いい質問ですね。誰か、わかる人はいませんか。」

生徒D 「それは、アッバース朝時代はアラブ人の特権はしだいに失われ [A] つまり、民族による差別が廃止されたということですね。」

先生 「うーん、エクセレント！カリフの政治はイスラーム法によって実施されるよ

うになったのですね。つまり、イスラーム教徒であれば平等な社会進出の機会が与えられたということが、ウマイヤ朝との大きな違いですね。」

生徒B 「全然違うんですね。」

先生 「そうなのです。アッバース朝は第5代カリフ、ハールーン=アッラシードの時代に全盛期を迎えましたが、その死後から帝国内のエジプトやイランに独立の王朝が次々と成立した結果、カリフの主権が及ぶ範囲が次第に縮小してゆきました。」

生徒D 「ハールーン=アッラシードって、何か物語の主人公の一人じゃなかった。」

先生 「さすがですね、Dさん。16世紀にカイロで現在の形になったとされるアラビア語で書かれた説話集ですね。シンドバッドの冒険や魔法のランプでよく知られていますね。」

生徒A 「『15』ですね。」

先生 「正解。この物語はインド・イラン・アラビア・ギリシアなどを起源とする説話文学の集大成なのです。と言うことは、イスラーム文明というのはアラビア語とイスラーム教を核として、古代オリエント・ギリシア・インドなどの文明を融合・発展させた文明だということになりますね。」

みんな 「なるほど、なるほど。」

先生 「明日はイスラーム帝国の分裂について勉強しましょう。」

問 文中の にはアッバース朝がウマイヤ朝と何が違うのかを人頭税と地租の語句を使って説明する文章が入ります。「人頭税」と「地租」の語句を必ず使い、文中の に当てはまる文章を80字以内で答えなさい。

解答

1	2	3
砂漠	ササン朝	預言者
4	5	6
ヒジュラ	ウンマ	カーバ
7	8	9
正統	アリー	ダマスクス
10	11	12
シーア派	イベリア	ハラージュ
13	14	15
ジズヤ	バグダード	千夜一夜物語 (アラビアン=ナイト)

A
イスラーム教徒であれば、アラブ人以外でも人頭税が課せられず、アラブ人のイスラーム教徒でも征服地に土地を持つ場合には地租が課せられるようになりました。

各 2 × 16

32点